



〒530-0041 大阪市北区天神橋 2-2-9

プラネット南森町ビル 8 階

電話 06-6352-3400 FAX 06-6352-3401

メール saposen-osaka@lemon.plala.or.jpホーム <http://www.saposen-osaka.org>

編集・発行/ NPO 労働と人権サポートセンター・大阪

センター・大阪



サポートセン通信 59号 目次

- ・大阪市「廃止」（都構想）のための法定協議会の設置反対 サポセンは陳情書を送付 1p-2p
- ・自民党圧勝を生み出したのは「高市人気」でも「小選挙区制」でもない
計量政治学者菅原琢の【2026年衆院選分析】 概要紹介 2-7p
- ・「岩盤保守層」の跋扈と高市政権の圧勝 総選挙の結果と民主主義の課題「職場の人権」研究会案内 8p

大阪市「廃止」 法定協議会の設置反対を陳情

大阪市会（市議会）開会日の2月17日に「大阪市対策連絡会議」「夢洲カジノを止める大阪府民の会」「どないする大阪の未来ネット」などの市民団体が大阪市を「廃止」す



る「制度設計」のための「法定協議会」の設置に反対する要請行動をおこなった。また24日には大阪府議会への要請行動が実施された。

サポートセン大阪は26日大阪市会議長宛に「法定協議会」の設置に関する陳情書を送付した。

大阪都構想「法定協議会」の設置に関する陳情書

（陳情趣旨）

先の衆議院選に便乗して、突如として実施された「出直し知事・市長選」は、吉村知事、横山市長の個人的な意向で28億円もの税金が無駄使いされました。ダブル選への抗議を含めた白票などの無効票が知事選で416,783票（投票総数の10.29%）、市長選では170,620票（13.77%）という異例の事態が発生しました。

吉村知事は「3回目の都構想住民投票への信を得た」と言いますが、選挙戦では都構想について、都構想という言葉だけで、具体的な内容や過去2度否決された提案内容との「違い」も示されず、有権者は判断の材料もなく、決して府民・市民は都構想に「信」を与えたことにはなりません。

知事・市長は来春までに3回目の「住民投票」を行うために、大阪市を廃止するための制

度案をつくる「法定協議会」を府・市で発足させると言います。法定協議会の設置を議会で決める府議会議員、市会議員の皆さんは自身の前回選挙で都構想について公約として一言もふれていないのです。

大阪の都市の在り方を決める重大事案について、府民・市民の意見も聞かず議会だけで勝手に進めることは民主主義の全否定であり、一部の権力者の独裁とも言えます。こんな独裁政治を許さないために議員の皆様の良識あるご判断を要望いたします。

（陳情項目）

1. 大阪市を廃止する「都構想」のための「法定協議会」設置を今年度は議決しないこと。
2. もしも、法定協議会の設置議案が提案されたとしても拙速な議決をせず、廃案、又は継続審議とし来年予定される市会議員選挙での争点の一つとして市民の議論・判断を仰いだうえで議会審議を行うこと。

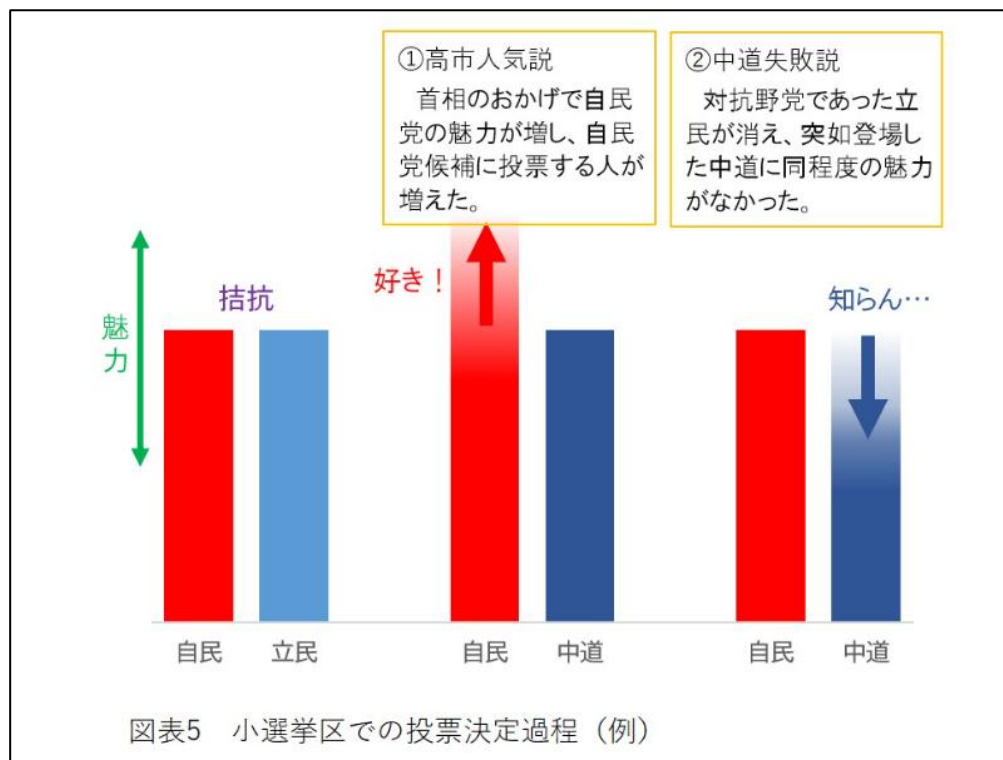
陳情者 住所： 530-0041 大阪市北区天神橋2丁目2番9号 プラネット南森町8階
 名前： NPO 労働と人権サポートセンター・大阪 代表理事 小林勝彦

自民党圧勝を生み出したのは「高市人気」でも「小選挙区制」でもない

計量政治学者 菅原琢【2026年衆議院選挙分析】概要紹介

第51回衆議院選挙結果について計量政治学者の菅原琢の論考の概要を紹介する。

結論から述べると菅原は「並立制小選挙区における自民党の圧勝は、
 「①高市人気説 首相のおかげで自民党の魅力が増し、自民党候補に投票する人が増えた」ことではなく
 「②中道失敗説



対抗野党であった立民が消え、突如登場した中道に同程度の魅力がなかった」「対抗馬の側の魅力が下がり、有力2候補の中での自民党候補が相対的に優位となり自民党候補が比例区他

党投票者から票を集めることができた」という説を取り、典型的な並立制の選挙結果だと推認する。菅原は自身のニュースレターで全文を無料公開している。

菅原琢の政治分析、<https://sugawarataku.theletter.jp>

推論の根拠となる選挙結果の自民党の得票数や得票率を基にした論考概要を紹介する。

自民党に票を投じたのは全有権者の 5 人に一人

「自民党の比例区得票率は全党の中で最も高いが、その値は 36.7%である。報道される圧倒的な選挙結果の印象に反し、比例区で自民党と書いた投票者は半数を大きく割り込んでいることがわかる。参考までに、今回衆院選の有権者数（1 億 351 万 7115 人、1 月 26 日現在の総務省発表値）に占める「絶対得票率」は 20.3%である。つまり、比例区で自民党に票を投じたのは全有権者の 5 人に 1 人ということになる。」

政党	得票数(全国)	得票率	議席数	
			配分	獲得
自由民主党	21,026,139	36.7%	81	67
中道改革連合	10,438,801	18.2%	35	42
国民民主党	5,572,951	9.7%	18	20
日本維新の会	4,943,331	8.6%	13	16
参政党	4,260,620	7.4%	14	15
チームみらい	3,813,749	6.7%	11	11
日本共産党	2,519,807	4.4%	4	4
れいわ新選組	1,672,499	2.9%	0	1
日本保守党	1,455,563	2.5%	0	0
減税ゆうこく連	814,874	1.4%	0	0
社会民主党	728,601	1.3%	0	0
安楽死制度を考える会	13,014	0.0%	0	0
計	57,259,949	100%	176	176

図表 1 2026 年衆議院比例区政党別得票数と議席数

「配分」は当初配分された議席数、「獲得」は自民党の候補者不足により他党へ移譲された議席を含めた議席数

高市自民党への支持は岸田自民党並に回復

「高支持率を説明するためにメディアが集めた局所的エピソードや、動画サイトや SNS の熱
烈な支持者もしくは業者の膨大な高市支持キャンペーンも、実際の支持率を示すものではな

回	投票日	自民党比例区	
		得票数	得票率
41	1996年10月20日	1821万票	32.8%
42	2000年6月25日	1694万票	28.3%
43	2003年11月9日	2066万票	35.0%
44	2005年9月11日	2589万票	38.2%
45	2009年8月30日	1881万票	26.7%
46	2012年12月16日	1662万票	27.6%
47	2014年12月14日	1766万票	33.1%
48	2017年10月22日	1856万票	33.3%
49	2021年10月31日	1991万票	34.7%
50	2024年10月27日	1458万票	26.7%
51	2026年2月8日	2103万票	36.7%

図表2 自民党の衆院選比例区得票数・率

い。有権者全員が投票権を持つ選挙は悉皆調査（しっかいちょうさ）（全数調査）であり、世
論調査やネット上の目撃例からつくられる印象よりも世論を端的に明示するものである。」

菅原は小選挙区比例代表制が導入された 1996 年以降の自民党の衆議院選挙比例区
の得票数と得票率を示して、高市自民党の得票数、得票数（2103 万票 36.7%）は 2021 年衆院選挙
岸田自民党（1991 万票 34.7%）に匹敵するレベルまで回復していたと分析する。

自民比例票を大幅に上回る票を集めた自民党選挙区候補

「一方、岸田自民党並の比例得票率では各選挙区 10%近い厚みの公明党票の離反を埋めるほどの支持率回復とはならない。この比例区得票率が示す支持率の水準では、小選挙区で過半数を大きく超える議席を獲得するのは本来困難なはずである。」

「2026 衆院選の最大の特徴は、自民党選挙区候補が公明票の離反にもかかわらず自民党の基礎的な支持を示す比例得票率を大幅に超える票を集めた点にある。」

「図表 3 のとおり選挙協力はあまり行われなかったが国政では協力関係にあった維新の会との合計を見ても、選挙区得票率が比例区得票率に対して突出して高いという傾向が見られる。維新の会に比例区で投票した人々の選挙区への投票では説明がつかないのである。」

選挙年	自民党 総裁	集計 政党	自民党単独集計			自公・自維集計			
			得票率		選挙区 -比例区	集計 政党	得票率		選挙区 -比例区
			比例区	選挙区			比例区	選挙区	
2000年	森	自	28.3%	41.0%	+12.7pt	自公	41.3%	43.0%	+1.7pt
2003年	小泉	自	35.0%	43.8%	+8.9pt	自公	49.7%	45.3%	-4.4pt
2005年	小泉	自	38.2%	47.8%	+9.6pt	自公	51.4%	49.2%	-2.2pt
2009年	麻生	自	26.7%	38.7%	+12.0pt	自公	38.2%	39.8%	+1.6pt
2012年	安倍	自	27.6%	43.0%	+15.4pt	自公	39.4%	44.5%	+5.0pt
2014年	安倍	自	33.1%	48.1%	+15.0pt	自公	46.8%	49.5%	+2.7pt
2017年	安倍	自	33.3%	48.2%	+14.9pt	自公	45.8%	49.7%	+3.9pt
2021年	岸田	自	34.7%	48.1%	+13.4pt	自公	47.0%	49.6%	+2.6pt
2024年	石破	自	26.7%	38.5%	+11.7pt	自公	37.7%	39.8%	+2.1pt
2026年	高市	自	36.7%	49.2%	+12.5pt	自維	45.4%	55.9%	+10.5pt

※選挙区の得票率は全選挙区の有効投票総数に占める自民党候補が獲得した得票数の割合を示す。

図表 3 自民党の比例区・選挙区得票率とその差

高市首相「人気」説では小選挙区の自民圧勝を説明できない

「人びとの政党リーダーの評価が選挙に影響するのであれば、それは政党に投票する比例区でより直接的に表れることになるはずである。」「歴代首相を大きく超える「高市人気」なるものが存在し、自民党の勝利を後押ししたのなら、自民党の比例区得票率が 2021 年と同程度とはならない。」

菅原は党首の「人気」なるものがなぜ比例区の政党票に乗らず、選挙区の候補にのみ乗ったのかを明快に説明したものはないと指摘している。

50%に近い得票率 小選挙区で過半数を超える議席獲得

「一部の小選挙区除いて自民党は小選挙区で50%近い得票率を得ることができている。図表4に示すように、今回の小選挙区は2番手の中道改革連合を大きく引き離れた票を獲得している。他の勢力を引き離して50%に近い得票率を得ていれば、並立制の小選挙区部分で過半数を大きく超える議席を獲得しても全く不思議はない。」

「ただし、この自民党の高い選挙区得票率は、自党の直接の支持者以外からの票によって支えられている。」

政党	得票数	得票率	候補者	当選者	復活者	平均得票数
自民	27,789,228	49.2%	286	249	26	97,165
中道	12,209,641	21.6%	202	7	13	60,444
国民	4,243,281	7.5%	102	8	20	41,601
参政	3,924,221	7.0%	182		14	21,562
維新	3,742,160	6.6%	87	20	15	43,013
共産	2,283,885	4.0%	158			14,455
無所	1,174,609	2.1%	40	4		29,365
減ゆ	354,617	0.6%	13	1		27,278
れい	255,496	0.5%	18			14,194
みら	156,853	0.3%	6		4	26,142
社民	148,666	0.3%	8			18,583
保守	97,753	0.2%	6			16,292
諸派	66,308	0.1%	11			6,028
計	56,446,718	100%	1119	289	92	50,444

※朝日新聞デジタルの結果データより作成。得票率は全選挙区の有効投票総数に占める各党候補が獲得した得票数の割合を示す。

図表4 2026年衆院選小選挙区政党別得票数、候補・当選・復活者数

菅原はこの「自党の直接の支持者以外からの票」党外票を「比例区で自民党に投票しなかった投票者が小選挙区で自民党に投票した票」と推察している。これにより自民党候補は2021年衆院選と同等レベルの得票を得た。一方、中道候補は2024年立民候補に比較して比例区他党投票層からの集票でも落ち込んだ。その要因を2024年衆院選以後、立憲民主党が多数の議席を持て余し、その支持を伸ばすことができなかった、ことであると論じている。

対抗馬の魅力低下で相対的に自民党候補が優位に？

最後に菅原の「中道失敗」仮説を紹介する。

立憲民主党は、野党内では国民民主党や共産党などの中間に位置し、自民党に対抗する野党の第一党として認知されていた。比例区得票率が示す立憲民主党の素の支持率は高くないものの、選挙区では多くの野党投票者の票を集めることができる立ち位置にあった。

これに対して中道改革連合とその候補は、立憲民主党のような野党の中核の立場を失した。立憲民主党と公明党の支持者を十分にまとめられなかった上に、これまで得ていた比例代表他党投票者の票も多く失っている。立憲民主党が中道改革連合という新党にかわったことにより、候補の魅力が下がったのだと言える。

菅原は「対抗馬の側の魅力が下がり、有力2候補の中で自民党が相対的に優位となり、自民党候補が比例区他党投票者から票をあつめることができた。」と解説する。 (S)

	2026衆院	2026衆院	2025参院	2024衆院	2022参院	2021衆院
	小選挙区得票数	高市・自維	石破・自公	石破・自公	岸田・自公	岸田・自公
参政	3,924,221	4,260,620	7,425,053	1,870,347	1,768,385	
保守	97,753	1,455,563	2,982,093	1,145,622		
N国			682,626		1,253,872	796,788
諸派	66,308	13,014	1,202,504	42,239		593,757
(無所属)	1,174,609					
減税	354,617	814,874				
みらい	156,853	3,813,750	1,517,890			
維新	3,742,160	4,943,330	4,375,927	5,105,127	7,845,995	8,050,830
自民	27,789,228	21,026,140	12,808,306	14,582,690	18,256,245	19,914,883
公明			5,210,569	5,964,415	6,181,431	7,114,282
立憲			7,397,457	11,565,122	6,771,945	11,492,094
中道	12,209,641	10,438,802				
民進						
国民	4,243,281	5,572,951	7,620,492	6,171,533	3,159,625	2,593,396
希望						
れいわ	255,496	1,672,500	3,879,914	3,805,060	2,319,156	2,215,648
社民	148,666	728,602	1,217,823	934,598	1,258,501	1,018,588
共産	2,283,885	2,519,811	2,864,738	3,362,966	3,618,342	4,166,067
	56,446,718	57,259,957	59,185,392	54,549,719	52,433,497	57,956,333
サポセン大阪作成						

職場 の人権

第239回研究会 **緊急開催！**

2026年3月21日（土）

14：00～17：00

関西学院大学 大阪梅田キャンパス
(K.G.ハブスクエア大阪)

「岩盤保守層」の跋扈と高市政権の圧勝

—総選挙の結果と民主主義の課題—



日本の『民主主義』を取り戻す！

関西学院大学教授 富田宏治 立命館大学教授 渡辺宏彰 政治発展所代表 趙誠柱

報 告 : 関西学院大学 法学部 政治学科教授 富田宏治
コメンテーター : 立命館大学 国際関係学部教授 渡辺宏彰
コメンテーター : 「韓国政治発展所」代表 趙誠柱 (チョ・ソンジュ)

昨年の参議院選挙で自民党から大規模に融け落ち、国民民主党や参政党の躍進をもたらした「岩盤保守層」を取り戻すこと、それが今回の衆議院総選挙における高市総理の目論見だった。抜き打ち解散総選挙での高市自民党の地滑りの圧勝は、こうした目論見が予想以上の成功を収めたことを意味している。この「岩盤保守層」とは何者なのか？ 彼らに熱狂をもたらすSNS選挙とはいかなるものなのか？ 劇的に離合集散をくり返し、熱狂的なお祭り騒ぎに興じる「岩盤保守層」を繋ぎ止めるため、高市政権はいかなる課題に直面することになるのだろうか？

そして、衆議院において絶望的な程の弱体化に追い込まれた野党勢力は、高市政権にどのようにして対峙していけばよいのか？ 可能な限り客観的なデータを踏まえつつ、こうした問いに答えていきたい。
 (富田宏治)

事前の参加予約をお願いします

参加費無料：会場参加+Zoomでのオンライン参加
 右のQRコード、または「職場の人権」HPからお申し込み下さい



主催：研究会「職場の人権」(<https://syokuba-no-jinken.org/>)

日時：2026年3月21日（土） 14：00～17：00

会場：関西学院大学 大阪梅田キャンパス(K.G.ハブスクエア大阪)
 アプローチタワー14階1405教室
 (阪急「大阪梅田駅」茶屋町口から徒歩5分)